

# 日本地衣学会

# No.46

# ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会務報告	159
	第11回青空地衣教室（長野県富士見町）報告／木下靖浩・安斉唯夫	159
	「富士見公園」および「富士見小学校」（長野県富士見町）で観察した地衣類／原田 浩	159
	第11回青空地衣教室に参加して／高橋雅彦	160
	「地衣で満腹。」ー入笠山観察会&講演会参加記／添田英子	161
	会員通信	162
	入笠山地衣類講演会・観察会の記録／安斉唯夫・木下靖浩	162

## 会務報告 Reports of the JSL Activities

### 第 11 回青空地衣教室（長野県富士見町）報告

去る 10 月 23 日に本年度関東地区での 3 回目の観察会として第 11 回青空地衣教室を開催することができたので報告する。

\* \* \*

開催日： 2004 年 10 月 23 日（土）

開催場所： 長野県富士見町富士見公園

内容： 低地～山地の地衣類を観察する

講師：原田 浩（千葉県立中央博物館）

参加者： 10 名（講師を含む）



図 1. 記念写真（富士見小学校前にて）。撮影：小山内行雄。

JR 中央線が事故で遅れたために開始が若干遅れたものの、好天の中、富士見公園および富士見小学校校庭で地衣類を観察した。

富士見町が高地にあるため観察場所は集落の中にあるものの高度は約 1000m と、いつもの観察地よりもずっと高い。そのため山地に見られる地衣も多く見られた。原田講師でなければ見つけられないマユゴケも観察したが、その小ささに、“後日この場所に来たとしても見つけられるかどうか・・・” はなはだ心許ない世話人で

ある。富士見公園と道路を挟んだ富士見小学校校庭の樹幹や門柱にも地衣が着生しており、環境の良さを実感させられた。最後に、富士見小学校校庭での地衣類観察を許可下さった富士見町教育委員会にこの場を借りて感謝いたします。

**（木下靖浩・安斉唯夫：地域活性化委員会関東）**

## 「富士見公園」および「富士見小学校」（長野県富士見町）で観察した地衣類

### 葉状地衣（1）ウメノキゴケ科

センシゴケ *Menegazzia terebrata*  
 オリーブゴケもしくはオリーブゴケモドキ *Melanelia olivacea* or *M. huei*

キクバゴケ属 *Xanthoparmelia* sp.

カラクサゴケ *Parmelia squarrosa*

コフキチョロギウメノキゴケ? *Myelochroa metarevoluta?*

トゲウメノキゴケ *Parmelinopsis minarum*

ゴンゲンゴケ *Hypotrachyna osseoalba*

ハコネゴンゲンゴケ? *Hypotrachyna revoluta(?)*

シラチャウメノキゴケもしくはタナカウメノキゴケ

*Canoparmelia aptata* or *C. texana*

トゲハクテンゴケ *Punctelia rudecta*

ハクテンゴケ *Punctelia borrieri*

ヒメキウメノキゴケ *Flavopunctelia soledica*

ニセマツゴケ *Parmotrema mellissii*

マツゴケ *Rimelia clavulifera*

キウメノキゴケ *Flavoparmelia caperata*

トゲトコブシゴケ *Cetrelia braunsiana*

### 葉状地衣（2）ムカデゴケ科

クロウラムカデゴケ *Phaeophyscia limbata*

トゲヒメゲシゲシゴケ *Anaptychia isidiza*

クロアシゲシゲシゴケ *Heterodermia japonica*

チチレウラシロゲシゲシゴケ *Heterodermia microphylla*

クロボシゴケ属 *Pyxine* sp.

### 鱗片状地衣

ロウソクゴケ *Candelaria concolor*

ノルマンゴケ *Normandina pulchella*

マユゴケ *Agonimiella pacifica*

### 樹状地衣

ドテハナゴケ? *Cladonia caespiticia(?)*

サルオガセ属 *Usnea* sp.

### 痂状地衣

ロウソクゴケモドキ? *Candelariella vitellina?*

キッコウゴケ属 *Diploschistes* sp.

クボミゴケ属 *Aspicilla* sp.

コナイボゴケ *Lecanora pulverulenta*

ダイダイゴケ属 *Caloplaca* sp.

モエギイボゴケ *Lecanora sibirica*

チャシブゴケ属（レカノラ・メガロケイラ）*L. megalocheila*

（原田浩：千葉県立中央博物館）

## 第 11 回青空地衣教室に参加して

土、日曜日にかけて長野県入笠山で観察会があると  
 いう。ちょっと遠すぎるので躊躇したが、オリンピック・レスリングの「気合だ、気合だ」を心で叫んで参加。  
 今秋は台風の当たり年であったが、その谷間にあって天気予報では全国的に快晴。しかし、新宿発の特急が遅れていやーな予感が。午後、長野県富士見町の富士見公園に集合。この公園は佐藤左千夫をはじめとする三つの歌碑があるアララギ派ゆかりの公園で、設計も左千夫が行ったという。青空地衣教室へは 3 回目の参加ですが、いつも茨城県からの参加者が無く、さびしい。原田先生のいつもの名調子の解説が始まる。しかし、私は先生の説明はうわの空で、写真撮影にとりかかる。植物は写真に撮って覚える、のが私の主義で、この方法で「三歩歩くと忘れる」のを防いできました。まず、大きな樹木に着生したキウメノキゴケからはじまるが、これは撮影済みでパス、次にトゲハクテンゴケ、となり、うーむ、これは以前撮影したかも、と思ったが取りあえずすぐ撮影。トコブシゴケは撮影に不向きでパス、マツゴケは撮影済みでパス……といった調子で大忙しだ。石碑に何やらついている痂状地衣はクボミゴケで、詳細不明との説明。地衣類は未開拓分野が多く、もし若ければ研究しても、と思ったが、60 の手習いでコケ・地衣を志した身にとっては既に遅し。キッコウゴケもあり、これは名は体をあらず、で覚えやすい。前回の大山での観察会でタカハシウメノキゴケに出会い（申し遅れましたが、私は高橋です）、思わずニンマリしてしまいましたが、形態とは無関係なので覚えづらく、命名としては疑問に思った。公園や山歩きでしばしば岩に固着した地衣に出会い、以前から知りたいと思っていたが、ひとつひとつ知っていくのは楽しい。地衣は知恵とおっしゃった先生がおられました。同感です。みごとなキクバゴケも石碑についている。別の樹木にもエギイボゴケがあり、ブナの代表的な地衣であるという。先日、裏磐梯の山を歩いたとき、改めてブナをしげしげ見ると、確かに多数の地衣がある。同行の人達に地衣類ですよ、と知ったかぶりして語ったがオオカノコゴケ、ウメノキゴケの仲間程度しかわからず、実力不足を痛感したばかりでした。

次に我がかたつむり集団は隣の富士見小学校に移動。校庭の大木にヒメキウメノキゴケがあり、希少種である

とか、普遍種の識別も定かでない私にとっては、へー、としか言いようが無い。帰宅後、環境庁レッドデータブック（植物II）でみると、絶滅危惧II種に指定され写真まで掲載されていた。もう二度とお目にかかれないかも、と今思うと、撮影しなかったのは一生の不覚。富士見小学校の校歌の中に「連なる峰はハケ岳、はるかに富士の山、空気は清く光豊かな、ここは信州富士見高原・・・」とあり、豊かな自然を改めて納得しました。

今回の観察会で原田先生からは多数の地衣類を教えていただきましたが、私としては撮影した8種類のみを記憶に留めて（記憶するのはフィルムで、私ではないかも）、他は種名をメモしただけで終わりました。その夜は入笠山の山荘に宿泊しましたが、あの新潟県中越地震が発生し、やはり悪い予感が的中しました。しかし、私にとっては翌日の入笠山の観察会と共に、かえって思い出深い青空地衣教室となりました。

（高橋雅彦：茨城県日立市）

## 「地衣で満腹。」—入笠山観察会&講演会参加記

10/23~10/24の長野県富士見町での2回の観察会と夜の講演会+αに参加させていただきました。講師はすべて原田先生です。

私は今年（2004年）の夏の大会で本学会に入会させていただきました。地衣類の姿形に魅せられ写真を撮っておりますが、地衣類の生態も知れば知るほど奥深く、謎めいていて、より一層「地衣類ファン」になりつつあるこの頃です。

初日の富士見公園では、すでに標高965Mにあるせいか、寒い寒い中での観察でしたが、めずらしい種、「世界でもほとんど知られていない」という和名のついていない種などがあり、初級とは思えない内容でした。「クロアシゲジゲジゴケ」の「黒足」（裏に付いているブラシのようなもの）をルーペで覗いたところ、びっしりと生えている足でがっちりとした木の皮に食い込ませている様に感じ、「マユゴケ」の子器は小さすぎて、いくら頑張っても、素人の私にはどうしても探し出すことができなくて、本当にくやしい思いをしました。観察会終了後、入笠山に車で上がり、暖かい炬燵を囲んでの山荘「山彦荘」での講演会では、ご主人であり「入笠ボランティア協会」の会長である伊藤さんと、ボランティ

アのメンバーである方たちと共に、スクリーンを見ながら「コケ」の中での地衣類の位置付け、生態、入笠山名物「ナガサルオガセ」について、お話を聞きました。メンバーの方たちから「苗場山で遭難しかけた時に山荘で出てきたお茶にサルオガセが入っていてとても体が温まった」とか、「チベットで紅色の同じもの（サルオガセ）を見たことがあるよ」とか、「贈り物を包むクッション材として使われていた」など、受身だけでない炬燵を囲んだ座談会のような雰囲気でもとても内容の濃いものでした。その中で未だ私の中に残る不安がひとつあります。入笠の自然を守る、維持をする目的である会長のご主人が「ナガサルオガセは木々を枯らしていないか」という質問をされまして、原田先生は「着生しているだけです、明るいところが好きなナガサルオガセは明るい枯れ木を好むだけです」と説明しても「いやいや、若木に付いているのも見たことがあるぞ」とまだ少し納得されていないようでした。翌日の入笠湿原でボランティアの方も参加しての観察会でも同じ質問を他のメンバーの方から原田先生が受けているのを聞きました。原田先生が「地衣類は悪者じゃないですよ」と懇々と説明をされていましたが、そのような疑問を感じている方が多いということが、地衣類ファンとしては心配なところです。そして、枯れ木の理由が本当に何であるのか？はこれから突き止めなくてはならない課題なのかもしれません。

+αの観察は午後から釜無山での原田先生、安斉さんの「標本採集」について回れたことです。目の回るようなスピードで様々な地衣類を採集しながら、説明してくださいました。

ただただ、ひとつひとつの特徴を眺めながら感心し続けることしかできませんでしたが、あのナガサルオガセの楽園の中に今のところ一箇所しか見つかっていないという子器をとうとう見ることができました。確かに足の先に小さな2mmほどの器を付け、そこからさらにまた少し髭をのばして、風に吹かれていました。子器をあまり付けないということは、ここにあるナガサルオガセたちはクローンばかりなのかしら？？という不思議な疑問のような期待のようなものを持ちました。

最後に、2日間、説明しどうしの原田先生（下山の車中でも、「頭状体」の説明をしてくださいました）と、お世話係りの安斉さん、木下さんに、この場をお借りして、お礼申し上げます。（添田英子）

## 会員通信 From Members

### 入笠山地衣類講演会・観察会の報告

入笠山ボランティア協会の主催により長野県富士見町において講演会、観察会が開催されましたので、報告いたします。

\* \* \*

2004年10月23日夜(土)、24日(日)

行事名：地衣類講演会(入笠山ボランティア協会主催)

開催場所：長野県諏訪郡富士見町入笠山

内容：地衣類の講演と亜高山帯の地衣類観察

講師：原田 浩

参加者：講演会 18人、観察会 31名

\* \* \*



図1. 観察会の様子.

今回の行事は日本財団の後援を受けた入笠山ボランティア協会が主催したもので、協会からの要請を受けて原田浩氏が講師として派遣されました。

23日の日中は麓の富士見公園、富士見小学校を会場として青空地衣教室が開催され、日没とともに入笠山に会場を移し、夜の講演会、翌日の観察会へと引き継がれました。

山小屋「山彦荘」の一室ではプロジェクターを持ち込んで地衣類の解説がなされ、質疑応答では樹木枯死のサルオガセ犯人説や食用にする地衣類の話で盛り上がりました。

翌24日の観察会は秋晴れのもとに31人も集まり、

湿原からカラマツ林内にかけて散策し、豊富なサルオガセ類や葉状地衣を観察することができました。

今回の講演会では協会の皆様、とりわけ協会の会長であり山彦荘主人の伊藤高明さん、終始おつきあいいただいた鈴木幸夫さんにはお世話になりました。また、観察会会場として敷地内立入にご理解をいただいた早稲田中・高等学校に感謝いたします。

(安斉唯夫・木下靖浩：地域活性化委員会関東)

#### ●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌42号148ページに。

#### ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 42, p. 148 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター 46号

発行日：2004年12月10日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内